

本年度の研究概要

(1)本年度テーマ

「自立し、共生する子どもたちをめざして」
～生活指導と学習指導の一元化～

◎生活指導と学習指導の一元化

平成15年度・16年度と文部科学省の人権教育研究指定を機に、本校の子どもたちの生活上の問題点と学力にかかわる問題点を考察した。その結果、これらの問題点は『地域性がもつ課題』に起因すると捉え、過去の取り組みを尊重し、継続したうえで、生活意欲と学習意欲の双方に結びつく指導のあり方を模索することにした。

つまり、生活指導と学習指導の一元化に向けた取り組みを人権教育の側面から研究することにより、生活や学習に意欲を持って取り組める自信を身につけさせ、人を愛し、誇りを持って地域を愛せる人権意識の高い子どもの育成を目指したいと考えたのである。

◎自立する子とは

本校の子どもたちの家庭環境や教育環境・地域が持つ課題を鑑みると、まずは自尊感情を高め、その上で学校生活・家庭生活などにおいて、『自立』した生活者となることを求めたい。私たちが求める子どもたちの自立した姿とは、以下の姿と考える。

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 『自分に自信を持ち、自分を大切にできる子』 | (自尊感情・自己肯定感) |
| 『自分の生活を律する意志を持つ子』 | (自己管理・自制心・自律心) |
| 『自分の力で問題を解決していく子』 | (自己解決能力) |
| 『進んで調べたり、まとめたりできる子』 | (自学力) |
| 『自分の考えや思いをもち、進んで伝える子』 | (自己表現力) |

◎共生する子とは

本校のこれからの教育は、子どもたちが「自ら学び、自ら考え、自ら行動できる」ようにするとともに、生活習慣を正し、社会のルールを守ろうとする素養を身につけさせる必要がある。つまり、「自立」する力に加えて、自分と他者や社会との関わりを理解し、お互いを認め合い共存するという「共生」のための教育を醸成していくことが重要であると考ええる。

- 『他人の人権についても正しく理解する子』(他者理解力)
- 『広い視野を持つ子』(グローバル性)
- 『個性を認め合う子』(人権感覚・協調・共感)
- 『お互いに心を合わせて仲良くする子』(協和・協同・協力)
- 『相手の立場になって物事を考えられる子』(洞察力)
- 『互いに成長しあおうとする子』(共存・共栄・共同)

こういった力を兼ね備えつつ、互いを尊重し、共存・共生していく子どもたちの姿を望みたいと考える。

教育3部会では、おのおのが、上記の姿を実現するべく、教材開発に努め、指導プランをたて実践し、評価しあいながら、全人的な人権教育をめざしていきたい。

(2) 本校が考える人権教育の4つの側面

○人権を守る教育

- …教育を受ける権利をはじめ、子どもたちが権利を守られている状況におく教育
教育を受ける権利の保障・・・遅刻・無断欠席を改善していく。
基礎学力をどの子にも備える
自分の居場所が保障されている学校・学級

○人権についての教育

- …子どもたちがさまざまな人権問題について学ぶ教育
同和問題を核にしたさまざまな人権問題の学習

○人権を味わう教育

- …人権が大切にされている状況から、人権を体得させる教育
人権が大切にされている状況を子どもたちが体感し実感する。
教師も試行錯誤しながら学びを共有していく。

○人権のための教育

- …自他の人権を大切にするための力をつける教育

- 知識・・・暗記すべき知識ばかりでなく、ものの見方や考え方を高めることも重視する。合理的・科学的なもの見方・事実をうのみにしない批判的リテラシー・視野を広く持つグローバルな見方を育てる。
- スキル・・・他者とどうつながるか関わるかというコミュニケーションスキル、自分の気持ちを自分なりに確認し、相手に強いることなくどう伝えていくかというアサーションスキル（根拠をもったやわらかい自己主張）を身に付けることをめざす。
- 態度・・・自尊感情を持つとともに、現状でよしとせず、さらによりよいものをめざす態度を培う。

(3) 研究の進め方

◎3部会

全教職員が人権学習部、基礎学力部、地域社会学習部のいずれかに属し、各部会の研究テーマにそって4つの側面を意識しながら、人権教育研究を深める。研究授業等を通して、適宜互いの取組、実践を交流しあう。

(4) 研究体制

